



夢☆きらめに

No.
17

加東市教育委員会/加東市人権・同和教育研究協議会 平成26年3月1日



「夢に向かって」 元全日本バレー代表 大山加奈さん
小中学校人権教育講演会（東条中学校）

目 次

● すみよいまちかとう	2 · 3	● 広域隣保活動	9
● 市同教の活動	4 · 5	● 第7期市民人権講座修了者名簿	10
● 学校教育部会・企人協の活動	6	● 保育園児の共同作品	11~13
● 同和問題啓発資料「ふるさと」発刊	7	● 中学生の人権作文	14~17
● 小中学校人権教育講演会・市民のつどい	8	● 新着DVD・図書紹介	18

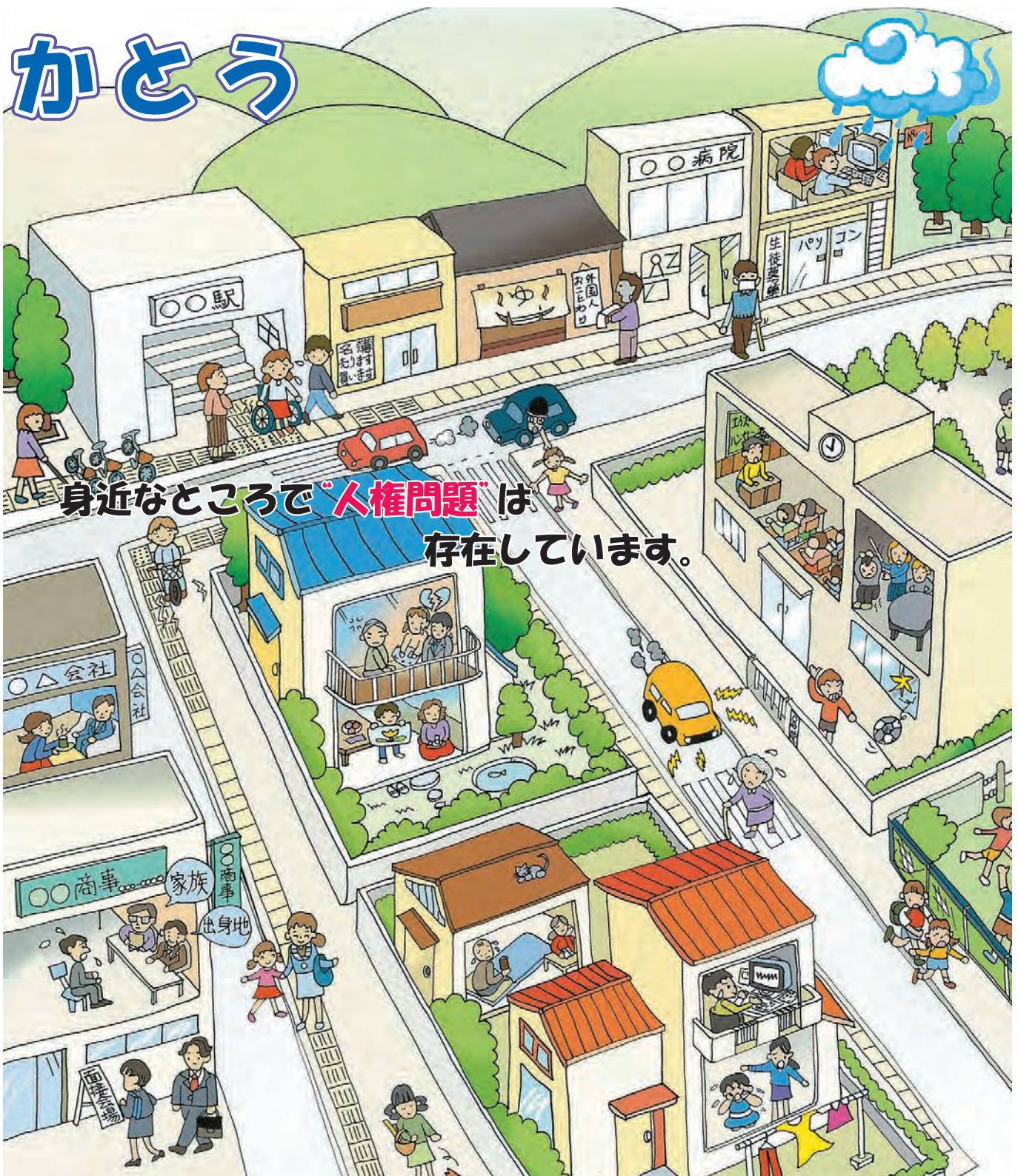
「永遠の〇」を読んで
戦争は人権蹂躪の最たるものです。生きたくても生きられなかつた特攻隊の青年をはじめ、戦争で亡くなられた多くの魂に祈らずにいました。

母の世代の青春は戦争一色だつたようです。そして多くの方々が、若くして戦死されてしまいます。戦後の平和は人々の犠牲の上にあります。

父と「永遠の〇」の主人公部は同世代です。父や公部は同世代です。父や母の世代の青春は戦争一色だつたようです。そして多くの方々が、若くして戦死されてしまいます。戦後の平和は人々の犠牲の上にあります。

昨年、私の父が九十一歳で亡くなりました。父は海軍でした。輸送船で南方に向かう途中、アメリカの潜水艦に沈められ、一昼夜海上に漂い、幸いにして後続の船に助けられました。シンガポールで敗戦を迎えた俘虜として2年間を過ごし日本に帰ってきたのでした。もつと父と話しておけばよかったですと今後悔しています。

「永遠の〇」という小説を読みました。ベストセラードでご存じの方も多いでしょう。すごい小説でした。特攻隊で戦死した祖父のことを、孫の姉と弟が、戦友から聞き取っていくお話をします。祖父である宮部のすさまじい生き方が段々と顕わになります。涙が流れました。そして心が洗われました。



心の田

かとうのまちで感じ
たうれしさは
あなたの人を思いや
るふるまいとたつた
一つのいじめです

わたしは あなたに
気づかされました
まちのいろいろなと
ころに 声を出さず
にいる人のことを
心の田をひらいて
あなたの後につづき
たいと思います



「絶対人権感覚」

具体的な人権問題を直感的に「おかしい」と認知する感性を絶対人権感覚といいます。この感覚が鈍ると身近にみられるいじめなどを見逃したりしてしまいます。「おかしい」と感じうる感覚「気づき」を一人一人が磨くことができれば、そして、一歩前に進む勇気を出しがができるれば、だれもが大切にされる「すみよいまちかとう」ができるでしょう。

高めよう人権意識、広げよう交流の輪

加東市人権・同和教育研究協議会

地区住民学習から

住民学習の実施状況

(26年1月末現在)

各地区での年間事業も定着化しています。差別解消に向けての人権学習。本年は「同和問題の解決を課題とした学習会の開催三ヵ年計画」の二年目に当たり、講師招聘や資料提示による学習会の開催が報告されました。

参加者の増加をめざして地区の事業やバス旅行等人の集まる機会をうまく活用して、人権ビデオを視聴したりいじめについて話をされたりなどよく工夫された取組が見られましたが、人権学習となると参加者は減少傾向にあります。

また、住みよいまちづくりをめざしての取組と連携して地区をあげての「ふれあい祭り」「伝統行事」の実施や「ふれあいサロン」

の会場で人権啓発パネルを展示するなど特色ある取組を工夫した地区もあります。さらに、年間を通じた「人権啓発紙」や「地区だより」を発行した地区もあります。

学習内容

① 「ほんとの空」を視聴して



66地区で、延べ約1897人がビデオを視聴して、感想を話し合ったり、意見交換したりして学習が行われました。

『主な感想』(抜粋)

● 私たちは、人の噂などをうのみにしてしまうところがある。地域にも外国人が住んでいる。文化の違いなどから誤解や偏見が生じてきたりするが、相手を理解しよう、受け入れようといふ気持ちがあれば、次第に交流が深まると思う。

● 日常生活において、誤った考え方や思い込みで人を傷つけている事実があることには気付き、何が問題なのかを追求する態度が重要である。また、人を傷つけてしまったと思われる事柄は、実のところ、自分自身をも傷つけている要因であることを知った。



- 地域性や何世代にもわたる中で、深く根付いている問題もあるので、一足飛びに解決するのは難しいこともあります。アウトラインをどのように確認していくかを大切に考えなければならない。
- ドラマを通してではあるが、自分自身や家族の生活における人権課題に気付くことができ、身近なところから実践することの大切さが見えてきた気がする。これから的生活において気付いたことから実践していくたい。
- 核家族化が進み、家族の中だけの付き合いになっている。例えば、おじいちゃんやおばあちゃんなど触れ合う機会があるかないかで、思い込みや偏見の持ちようもずいぶんと違うと思う。意識的にまた積極的にかかわりを持つことの大切さを感じた。
- 傍観者として差別や偏見を放置することが被害者を救えなくしてしまい、周囲にいる人が勇気を出して声をあげることが必要だ。

- 「気持ちはハート」を大切にしていくことと、取り組みを継続、継承していくことを今後も大事にしたい。
- 日常生活にあり得ることでも再考する機会となり、普偏見、また同和地区についても再考する機会となり、普偏見の内容について考えることができた。原発事故に連する放射能問題にも触れており、「自分だったらどうするか」、現在の問題についても考えることができた。
- 思い込みや偏見によって他人を傷つける状況がよく理解できた。思い込みや偏見の意識改革が大切である。眞実を見つめることによって、人付き合いもうまくいくのではないか。子どもは純真な気持ちで人と付き合っているのがよく理解できた。身近に感じる教材だったので、参加者は理解しやすかつた。

②他のビデオを視聴して

12地区で、延べ358人が「生活の中の人権」「日常生活の人権」「心の窓（原爆被爆）真実を語り継ぐ」、「盲導犬クイールの一生」「あの空の向こうに」「いま部落を語る若者たち」「同和問題と人権」「老いを生きる」「風と大地と梨の木と 第3章老いのいきさき」「女性と子どもと母親」「わたしも ボクもみんな生き活き」「狹山事件に関するDVD」などを視聴して学習しました。また、子どもの人権学習を行なった地区も見られます。

③講演会等

講師を招いての講演会が15地区（633名）で実施されました。

演題は、「人権を意識した地域づくり」「ほんとの空を視聴して」「同和問題の解決に向けて」「いじめ」という人権そのものに関わる内容から、地域のニーズに応じた「防犯について」「幸せな家庭、地域、社会づくり

9/8住民人権学習会の様子



【北野地区】

りを考える」「楽しい語りコンサート」「子どもとストレースー親・大人のかかわりと工夫ー」「誰もが幸せになりたいのです」「かかわりあうこと、つながりあうこと」など様々な内容です。

郷土の歴史（神社や伝承・伝記）を学ぶことを通して、文化を次世代につないでいこうとする目標をもつた地域の学習成果も特徴的でした。

このほか、パネルを展示して人権について啓発する地区もありました。

△主な講師

地区的区長・社会教育推進委員さん、内藤晴樹さん、堀井洋一さん、田中賢治さん、小林伶子さん、服部康さん、山本英恵さん、井上茂さん、小倉栄進さん、阿江義春さん他（順不同）

りを考える」「楽しい語り

ふれあい活動

各地区で、住みよいまちづくりをめざして、人権尊重の理念にもとづいた様々

なふれあい活動が実施されました。各地区で普段接すことの少ない三世代の人々

が交流し合う場が数多く設

定されています。多くの方々が触れ合うことにより、明るく豊かな人間関係が築かれるのではないかでしょうか。

また、他地区と交流をさ

れていることも素晴らしい

と思います。さらに、ふれあい活動の前に人権学習をされる地区もあります。

○その他

- ・ふれあいバスツアー
- ・ふれあいサロン
- ・人権パネルの展示
- ・沿道の花壇作り
- ・クリーンキャンペーン
- ・サツマイモ、稻の栽培

△主な実践活動

●スポーツ活動

バレー、グラウンドゴルフ、ボウリングなど

●文化活動（カラオケ、料理、楽器の生演奏奏等）

●伝統行事の継承、祭り

●ふれあいの集い

●注連縄づくり、とんど

●昔の遊び、餅つき

●池浚えと雑魚とり

啓発紙の発行

●啓発紙「○○だより」を

発刊し、全戸に配布して人権意識の高揚を図った地域もありました。



地区住民学習を終えて
「人権尊重・差別解消」
を共通目標にして、それぞれの実態に合わせて、創意工夫していました。

下さる内容についてはP8に掲載しています。
来年度の参考にして下さい。

住民学習の成果発表

日時 平成26年
2月15日(土)

場所 滝野文化会館

家原（山本さん）

北野（品川さん）長井（松本さん）の三地区より本年度の取組が発表されました。

ありがとうございました。
内容についてはP8に掲載しています。
来年度の参考にして下さい。

学校教育部会から

公開授業

学校教育部会では年間 3 回の人権・同和学習の公開授業を行っています。24 名の部員が授業を参観し、授業後の研究協議を通して人権課題の解決に迫る授業改造に努めています。

三草保育園公開授業

● 5 歳児ご組

● 指導者 今村沙織先生

● 題材・ねらい 「友達と協力して運動会をしよう！」

通して思いやりの心を育む



10 月 4 日

感想 先生と子どもの関わりが素晴らしい。みんなが明るく楽しく活動す



12 月 6 日

る中で、自分の気持ちを第一優先にせず、相手を喜ばせたのがすごかつた。

滝野中学校公開授業

● 第 3 学年

● 指導者 山本浩司教諭

● 題材 「将来に生きて働く資質（能力）とは」

らわれることなく、意欲や人間性を大切にしようとする価値観をもつ。

● 内容 山本建設という架空の企業が人事採用を行う。選考で最終に残った4人の中から1人を採用するという設定。それを重役会議で決める。4人グループの重役会議で意思交流を行うロールプレイングを取り入れた授業。

米田小学校公開授業

第 6 学年

● 指導者 大野史佳教諭

● 題材 「みんなができること」

いじめにつながる身のまわりの変化に気づくとともに、いじめの未然防止や解消に向けて主体的に取り組もうとする態度を身に付ける。



12 月 10 日

感想 児童は自分たちの弱さについてしっかりと気づいており、そこから出来ることをとてもしっかりと考えようとする学びに対する前向きな姿勢が見られた。

加東市企業人権教育協議会の活動

合同視察研修

〈11月 19日〉

人権ゆかりの地

「舞鶴引揚記念館」を訪問

私たち企人協は、加東市同教、人権擁護委員の方々と京都府舞鶴市にある「舞鶴引揚記念館」と「赤レンガ博物館」、福井県小浜市の「明通寺」へ合同視察研修に出かけました。



の家族の、辛く悲しい抑留生活の様子に、参加者は眞剣に耳を傾けていました。

メインとなる今回の訪問先は、「戦争と人権」をテーマにした舞鶴引揚記念館。館内では、ガイドによる展示資料の詳細な説明があり、終戦を迎えるても祖国に帰ることができないなか、57 万人にも及ぶ旧日本兵とそ

未加入の企業・商店の皆様、ぜひとも、加東市「企人協」に加入ください。
加入申込は人権教育課内企人協事務局
TEL 43-0544まで

同和問題啓発資料『ふるさと』発刊

保存：住民学習用資料



ふるさと

絵～みんないきている～ 河高保育園

詩人・丸岡忠雄

差別により、ふるさとを語れない人がいます。今一度、同和問題への正しい理解を深め、だれもがふるさとを誇りにできるまちづくりについて考えてみませんか。

加東市人権・同和教育研究協議会
加東市・加東市教育委員会

“ふるさと”をかくすことを
父は
けもののような鋭さで覚えた
ふるさとをあばかれ
縊死した友がいた
ふるさとを告白し
許婚者に去られた友がいた
吾子よ
お前には
胸張つてふるさとを名のらせたい
瞳をあげ何のためらいもなく
「これが私のふるさとです」
と名のらせたい

同和問題解決に歩み出したときの考え方

同和問題の本質
いわゆる同和問題とは、日本社会の歴史的発展の過程において形成された身分階層構造に基づく差別により、日本国民の一部の集団が経済的・社会的・文化的に低位の状態における現代社会においても、なおいちじるしく基本的人権を侵害され、とくに、近代社会の順序として何人にも保障されている市民権利と自由を完全に保障されていないという、もっとも深刻にして重大な社会問題である。(中略) 同和問題は異人種でも異民族でもなく日本人である。
(昭和 40 年 8 月同和対策審議会答申一部抜粋)

同和問題解決の取組

同和問題の現在の課題
人々のたゆまぬ努力により解決に向かってきましたが、誤った考えを持つ人がいます。学びを通して正しく理解されることを願っています。

現在の主要な取組

- 正しい知識を学びましょう
- 偏見・差別意識をなしましょう
- 他人事から自分の事と考えましょう
- 間違った伝聞をやめましょう
- 「そっとしておけば自然になくなる」という考え方を改めましょう

同和問題解決に向けて

同和問題解決の方向
同和問題解決には、「同和問題の本質」を踏まえながら「差別の実態」を正しく学び、展望を描くことが重要と考えます。

差別を必ずなくす
同和問題の元になっているのは「決めつけ」「思い込み」です。正しい理解で必ずなくなります。

家庭の教育が出発点
児童・生徒は、大人の考え方や姿勢に影響されます。家庭から偏見や誤った知識を身に着けないようにすることが大切です。



しかし、今日の急激な時代の変化や多様化の中、同和問題に対する人々の意識に変化が見られ新たな啓発の方策を見直す必要を感じました。そこで、原点を見失うことなく今日的課題を考慮した啓発・教育の再構築をすることとなりました。今回その新たな啓発の出発として啓発資料「ふるさと」を作成しました。

作成の特色は、解説書ではなくそれぞれの課題に対して「気づき」と「自らの力」で解決の方途を探つていただくことになりました。従つて、活用の方法は各人の学習ニーズに応じたものにして活用いただくよう願っています。

「なぜ今、同和問題啓発パンフ発刊か」

小中学校人権教育講演会

「生きてるって幸せ」

講師：道志 真弓さん
(ナレーター・元フリー・アナウンサー)

日時：10月24日（木）
場所：滝野東小学校（対象／滝野東・滝野南小学校）



不妊治療の末、やっと授かった娘が世界で 30 数例の染色体異常と診断され、8 歳で他界。娘の弓華さんが家族に教えてくれた命の大切さについてお話をいただきました。

家族とは、生きているとは、普段あまり意識することのない「生」について考える機会を提供いただきました。

話を聞いて本当に生きてるって幸せだなあと思いました。赤ちゃんの病気を受けとめられる家族もすごいなと思いました。

私は話を聞いて涙があふれました。私のお母さんはよく「生まれててくれてありがとう」と言います。お母さん、お父さんにとって子どもは本当に大切な宝物なんだなあと思いました。とっても良いお話を聞けてすごく感謝しています。（5年生）

「夢に向かって」

講師：大山 加奈さん
(元全日本バレー・ボール選手)

日時：11月30日（土）
場所：東条中学校（学校オープン）



身長 187cm の大山さんが入場すると、その背の高さに会場からはどよめきが起きました。

◆講演より

中学生の皆さんに伝えたいこと、それは、夢を持って努力を続けたら夢が現実になるということ。もちろん努力をしても叶わないことはあるが、叶うと信じて努力することが大切。好きなことを突き詰めていくことも目標達成への近道になるし、自分の財産になります。中学時代を共に過ごした仲間は、大人になった時も素晴らしい関係を続けることができる覚えていてください。

人権を考える市民のつどい 2014

2月15日（土）、滝野文化会館で、「人権を考える市民のつどい 2014」が開催されました。開会行事に続き、第1部の中学生による人権弁論の発表では、市内4中学校の生徒に自分の経験を通じたそれぞれの思いが込められた作文を発表していただきました。（P14～17に掲載しています。）

続いて第2部として、市内の3地区から創意工夫を凝らした住民学習の報告が行われました。

最後は、講師に浦野龍也さんをお招きし、「人として生きる～盲導犬と共に～」と題し、ご講演いただきました。

第2部 住民学習実践発表

【家原地区】（発表者／山本二三秋）

- ①人権学習（人権・同和講演会）
「ほんとの空」視聴と講話
服部 康氏
- ②地区行事と人権学習
盆踊り大会・「いじめ」について
三世代交流行事
- ③伝統行事
お頭神事・観音寺、赤穂義士慰靈祭

【北野地区】（発表者／品川成治）

- ①とんど焼き
- ②三世代交流グランドゴルフ大会
- ③ふれあい天神祭り
- ④ふれあい盆踊り
- ⑤人権学習会
- ⑥ふれあい「地区防災訓練」
- ⑦北野地区敬老会

【長井地区】（発表者／松本亨）

- ①天神祭への参加・交流
人権の視点：高齢者・子どもとの触れ合い
- ②啓発ビデオ「ほんとの空」の鑑賞
人権の視点：高齢者・障がいのある方・外国の方との共生社会の創造等

第3部 トーク＆ライブ

「人として生きる～盲導犬と共に～」

NPO 法人 ゆう工房 前理事長 浦野 龍也さん

突然光を失った苦しみから希望を持って生きるまでのさまざまな出会いを、歌と語りで披露していただきました。盲導犬とともに歩んだこともお話をいただきました。



広域隣保活動

転倒骨折予防教室

高齢者が要介護になる原因の1つに転倒骨折があります。この講座では、下肢筋力低下の予防や改善のポイントを学び、介護予防を実践します。転倒骨折予防教室は、「まちかど体操教室」の名称でも知られています。

腕におもりをつけて上下左右に負荷をかけます。難しい運動ではありませんが、正しく行うと大きな効果が得られます。最後に簡単なゲームを行いました。頭で思うことと体の動きがバラバラで、皆さん大爆笑！笑いの絶えない楽しい教室になりました。



12月20日
薮公民館



消費生活出前講座

この講座は、悪徳商法から身を守るための「知識と対策」を学んでいただく講座です。

還付金詐欺の実際の電話音声や契約についての○×クイズ、DVD視聴を通じて、悪質商法の実態や手口を知り、見破り方や断り方と一緒に身につけました。



12月5日 森尾集会所

人権教育講演会

講師にNICT情報技術推進ネットワーク・兵庫県警察サイバーパトロールモニターの松尾由香理さんをお招きし、「インターネットと人権」と題して滝野公民館にてご講演いただきました。

私たちの生活にたいへん便利なインターネットの誤った使い方によって発生する「人権侵害」のことについて、分かりやすくご説明いただきました。



2月12日



11月27日 薩公民館

低栄養予防講座



11月26日 鎌田隣保館

「食べること」を大切にすることが、身体機能の維持向上の基本です。自分の栄養状態と改善のポイントを知っていただくための講座です。

高齢者に多いといわれる低栄養、3食しっかり食べているから大丈夫！なんて思っていると意外な落とし穴がありますね。

こころの健康講座

懐かしい思い出に働きかける回想法、こころが元気になります。人とのコミュニケーションの大切さを学びます。回想法は、認知症予防にも効果が期待されています。

今回、民生児童委員さんのお声掛けにより、過去最多のご参加がありました。まさに会場が狭く感じられるほど。

「戦争」について語られる方が多かったのが印象的でした。激動の時代を生き抜いてこられた人たちの言葉には重みがあります。皆さん昔のことについて語らせていらっしゃいました。

講座の最後に「楽らく勇躍体操」をして、心も体もあたたかくなりました。



第 7 期加東市民人権講座修了者名簿

第 7 期加東市民人権講座を 3 回（2 回と補講を含む）受講し、修了書を交付された皆さんです。
様々な人権課題について学習していただきました。学んでいただいたことを地域やご家庭で実践していただきますようお願ひいたします。

平成 26 年 3 月 1 日現在

【社一区】	依藤嘉仁	大杉和夫	完山承録	西山正則	【やしろ台】	本多博親
【社二区】	岡部俊男				【上鴨川】	大畠秀弥
【社三区】	森本正一	奥田泰五			【平木】	永井みゆき 大西千賀子
【社四区】	宮野泰徳	横井 理	芹沢和弥		【光明寺】	繁田泰三
【社五区】	藤原佳朗	藤本秀信			【上滝野】	小西法子 宇喜多祥子
【ひろのが丘】	安田文子				【下滝野】	岸本 隆 稲見勝則 石井靖子 林 茂代
【山 国】	田中克幸	田中ちよ子	井上たか子	友原喜代美	【新町】	大西誠一 林成次郎 尾縣哲夫 三谷興二
		井上 繁				尾縣正則 竹内誠彦
【松 尾】	黒石頼昌	藤本みえ子			【北野】	内田智久 丸本晃義 大西 孝
【田 中】	金川博実	大橋保夫			【穂 積】	神戸滋和 末廣義隆 末廣昭彦 神戸正春
【貝 原】	藤本裕子	吉田主昌			【稻 尾】	白井保夫 竹内善範
【西垂水】	藤本昌巳				【曾 我】	朝井友紀
【窪 田】	中西いずみ	小西裕喜子	前田優子	神崎 寛	【河 高】	稻見明仁 古田有希子 日浦美音子 小林泰子
【家 原】	藤本義一	門脇典子	森本康仁			藤井きよ美
【上 中】	森本としみ	北田良治	亀野保夫		【高 岡】	大久保昭一 岡本明真 頃安武夫 菅野泰彰
【梶 原】	宮田孝善	柳瀬秀樹				間倉良容 黒崎泰則
【喜 田】	岸本芳雄				【天 神】	岡部早苗 西山早苗 武中繁子
【沢 部】	田中民世	藤井泰則			【掎鹿谷】	宮崎俊雄
【福 吉】	小林義昭	玉井秀樹			【黒 谷】	上野敏恵
【上 田】	石井英昭	壺井百里子	石井京子		【古 家】	藤井良太 藤原弘美
【大 門】	蓬菜節子				【常 田】	田中圭一
【西古瀬】	元田典子	井上やす江			【西 戸】	石田晴子 藤田重明
【中古瀬】	小林さとみ				【少分谷】	浦野光生
【東古瀬】	内橋くるみ	小紫正明	内藤喜和		【長 井】	松本 亨 松本智美
【東 実】	山口文明				【長 谷】	坂本光史
【 畑 】	大槻真澄				【黒 石】	山口直美
【池之内】	藤本真奈美				【横 谷】	田中徳子 中上清美
【上久米】	田中好美	松下直美	藤原敬子		【 森 】	藤原久宣
【下久米】	岸本 悟	河村雅人			【岡 本】	藤原陽一 片山昌樹 田尻喜美子
【久 米】	前田憲良				【新 定】	藤原英員 松本まつみ 石田恭子
【上三草】	酒井哲夫	西山敏幸			【吉 井】	岸本弘美 塩田尚子 長尾ちよの
【やのわらぎ】	松高 豊	藤本奉享			【小 津】	藤原 健 山本泰宏
【下三草】	森本史子	樹梨林三			【栄 枝】	森 由香
【木 梨】	桐藤康彦	松井勝美	藤本 衛		【松 津】	藤原多功麿
【藤 田】	藤原正彦	杉本たづ子			【東垂水】	古田猛志 古田千里
【山 口】	西山勝志	藤原浩幸			【大 畑】	土肥孝年
【馬 瀬】	覇物俊昭				【依藤野】	藤原寿治
【牧 野】	藤浦 敏	藤浦 透			【嬉野東】	福島容子 立岡高昭

(敬称略)

人権啓発作品展

市内の保育園（所）の園児が「市民一人ひとりの幸せが実感できるまちづくり」をテーマとした人権啓発作品を作成し、秋のフェスティバル（平成 25 年 11 月 2 日～3 日）や人権週間期間中にやしろショッピングパーク Bio で人権啓発展（平成 25 年 12 月 4 日～19 日）を行いました。

子どもたちのあたたかい心に触れる事が出来ました。



てんまでとどけ！

くもの上には 何があるんだろう?
みんなで力を合わせて のぼってみようよ!
加茂保育所（5歳児）



みんなで日本一

一人ひとりが個性豊かに表現をして、
みんなで1つの作品を作りあげました。
たきの愛児園（5歳児）



スマイル!!はなダンス

皆で協力して取り組んだ旗ダンス。
放射線状の風車、4つのグループで行進したよ。
社保育園（5歳児）



とびだせ！みんなの夢

子どもの夢は無限大。みんなをのせて、
さあ出発! 飛べロケット、みんなの夢をのせて。
社保育園（4歳児）



ともだちの輪

手と手をとりあって、「友達を大切に」との思いで
製作しました。みんな仲良くなあれ!!
泉保育園（5歳児）



栄光の架け橋

手をとり合い、支え合う絆。
みんなでつなぐ栄光の架け橋
高岡育児園（4・5歳児）



ながよくぴょんぴょん

みんなみんなで 仲良く遊ぼう!!
いろいろな友だちと遊ぶと楽しいよ!!
東古瀬保育園（5歳児）



みんなでコスモス祭り

花も虫も動物もみんな友達!歌や合奏、心と心を合わせて
Let's コスモスまつり!!
正覚坊保育園（5歳児）



みんなの夢

将来の夢は?大きくなったらどんな仕事がしたい?
一人ひとりの夢が叶うといいね。
さくら保育園（5歳児）



みらいにむかって

大好きな仲間と、仲よく紙飛行機に乗って、
夢いっぱいの未来に向って飛んでいきます。
秋津保育園（5歳児）



みんな、だいすき♥

ともだちやかぞく、どうぶつにたべもの、
あれもこれも、みーんなだいすき♥
椿山保育園（5歳児）



みんななかよし

園庭には、水、緑、岩など自然がいっぱい！
池には金魚やカエルが住んでいて みんなともだち★
東条保育園（4歳児）



みんなきていろ！

春に見たつばめや小さい虫も命をつなごうと
一生懸命生きているという事を表現しました。
河高保育園（5歳児）



みんなでそだてよう！

子ども達が毎日水をやり 成長する野菜を
楽しみにしながら育てて 大量収穫！ おいしかったよ。
鴨川保育園（4・5歳児）



こぐまの木

友達と力を合わせてがんばった思い出が、
こぐまの木に大きな実を実らせました。
三草保育園（5歳児）



がんばろう！山登り

一年を通して清水寺に山登り。
四季を感じたり、皆で励ましあって登っています。
米田保育園（4・5歳児）



「私たちの 考えるべきこと」

社中学校
3年 厚海 悠貴

『人権』は、憲法にもうたわれているほど我々にとっては重要なものです。しかし、いつでも、だれでもが、人権というものを意識しているのかと言われば、そうではないような気がします。ふだんの生活では、だれもが、それほど人権というものを気に留めて行動していないのが現状です。私自身も、社会科の授業を受け、少しづつ『人権』について考える機会を与えられ、それに対する考え方を変化していったように思います。

さて、世界では今まで、いったいどれほどの戦争や争いが起こってきたのでしょうか。これは、社会科の歴史的分野を勉強しているときに、私が感じたことです。私は、戦争こそが、人権に対して、大きな弊害となるのではないかと考えます。過去や現在において、戦争をして、とてつもない数の犠牲者が出ています。その犠牲者の多くは、一般市民であり何の罪もない人だったのです。この事実から、その人々の人権は、いったいどこへ消えてしまったのだろうということを考えました。戦争をしているような場所では、「命の大切さ」や「人権」などと言っていられないのは、しかたのないことなのかもしれません。今、この時代を生きている私たちだから、こんな思いを持つのかもしれません。しかし、どちらにせよ、今も昔も、命というものは一人に一つ与えられた大切なものだということだけは忘れず、心においておかねばならないと考えます。

国同士の紛争でもある「戦争」。これは、人々の意思とは関係なく起きてしまうのですが、戦争を起こしているのは人間自身なのです。私は、戦争の原因は、人の心にある欲望であると思っています。人は、誰しも自分が一番ありたいと考え、他人を優先して、自己を犠牲にするなんて、ふつう大半の人ができないことだと

思うのです。そんな心の弱さや、相手よりは自分を優先に、という思いから、争いは生まれます。しかし、その欲望のために、人を傷つけたり、命を奪ってもいいとは絶対に思いません。

かつて、世界でたくさんの戦争が起こっていたように、今もなお、戦争は起こり続けています。今までの反省の上に立ち、もう争いなんてしないという気持ちにはならないのかと考えてしまいます。

しかし、戦争をしている中でも、人々の心や思いは前を向きつつあります。人々は心の中で『世界の平和』を求め続けていると思うのです。

日本でも、憲法に平和主義を掲げています。これは、日本がおこなってきた過去の戦争に対する反省や、世界で唯一、被爆国として「世界平和」を望む強い気持ちのあらわれです。すべての人に、「恒久平和」という概念が芽生えたら、その望みは現実のものへと、より一層近づくのではないかなどと思います。

私は、一人でも多くの人が、平和に対する強い思いを抱き、その思いによって一秒でも早く、一つでも多くの戦争が終わりを迎えることを確信しています。戦争をなくしていく努力をしつつ、戦争の影響、平和、命の尊さについて、過去の悲惨な体験をしっかり検証して次世代へと語り継ぐことが、これから私たちの使命ではないかと感じます。

社会科の授業の中から戦争を通して、『人権』というものについて考えてみましたが、今の社会には、もっと他にもたくさんの人の人権が侵害されていることがあるように思います。たとえば、児童虐待やネットでの中傷事件は、連日のようにニュースをにぎわしています。すべての人が、かけがえのない一生を過ごすために、一人ひとりができるここと、一人ひとりの人権を大切にするという小さなことを実行することが、自分を含めたまわりの人々、そして、誰かの幸せにつながるにちがいないと私は考えます。



※中学生の作文は2月15日に開催した「人権を考える市民のつどい2014」で発表されました。



『笑顔』

滝野中学校
2年 阿江 由里香

私は吹奏楽部に入っています。数か月前、地区の敬老会に招待されて演奏しに行きました。そこにはたくさんのおじいさんおばあさんが参加されていて、私たちの演奏を楽しみにして下さっていました。演奏が終わった後も、「本当に今日はありがとう。とても楽しかったよ。」などと、心のこもった温かい言葉をかけていただきました。本当に嬉しかったのですが、そのとき私はふと、私たちの演奏を聴いて笑顔になってくださったおじいさんおばあさんにも、実は普段の生活で困っていることや悩んでおられることがあるのではないか、という思いがよぎりました。というのは、私のことをいつもかわいがってくれる、私の祖父母の姿と重なったからです。

私は六人家族で、祖父母と一緒に生活しています。二人とも元気で、私の身の周りのことをたくさん手伝ってくれているのですが、それを当たり前に思っていました。しかしこの前、祖父母が旅行に行っていたとき、祖父母のありがたみがよくわかりました。両親が仕事に行っているぶん、祖父母が私と妹の食事を作ってくれたり、習い事の送り迎えをしてくれたりしています。今、祖父母は元気だけれど、もしこれから病気になったり動けなくなったりしたら、私が身の周りのことを手伝ってもらったように、今度は自分が祖父母の手伝いをしないといけないと思っています。甘えてばかりではなく、自分のことは自分でするようにと心がけなければならぬと思いました。

現在、テレビなどで高齢化社会における課題がよく取り上げられています。それを聞くたびに、二人で暮らしている母方の祖父母のことが心配になります。最近は、車の運転が困難になってきていたり、パソコンなど機械の使い方が分かりにくくなったりしているようです。それに、耳や手足も不自由になってきて、今までできていたことがだんだんしづらくなってきたと聞きます。「二人で一人分ぐらいの仕事しかできなくなってきた。」などという言葉を聞くと、何とも言えない気持ちになります。いろいろ困っているんだな、とも思います。祖父母の家はとても田舎で、若い人が少ない地域です。車がなければどこに行くにも不便です、だから、車の運転が困難にな

ってきている悩みはとても大きなものです。だけど、祖父母たち自身は悩みをひとつでも減らそうと、いろいろな工夫をしています。例えば、買い物に行くのが不便だからという理由で、地域の皆で宅配サービスを利用しています。また、健康に過ごせるようにと考えて、定期的に公民館で集まって体操やグランドゴルフを楽しんでいます。さらに、農業も続けるのが困難になってきているので、地域の人と共同で機械を使い、皆で助け合って仕事をしているそうです。最近は協力なしでは暮らしていくないと切実に感じてきたそうです。私も、「協力しあう」ということがどれだけ大切なことか、改めて感じさせられました。

祖父母の話を聞いて、こんな私でも役に立つことがあるのではないかと考えました。例えば、高いところのものを取ってあげたり、パソコンなどの機械の使い方を分かりやすく説明したりするなど、私たちのちょっとした行動が祖父母の大きな手助けになると思います。いつも遊びに行くと、喜んで迎えてくれるし、私には簡単なことをちょっと手伝うだけですごく感謝してくれます。だから、手伝った私の方も嬉しくなるし、手伝ってあげてよかったと思います。

こんな小さなことの繰り返しを、祖父母だけでなく困っている方々にできたら、この社会に生きている人すべてが、演奏を聴いてくださったおじいさんおばあさん方のように笑顔になれるのではないかと思います。そして、誰もが気持ちよく暮らせる明るい社会になると思います。私は、明るい社会とは「皆がお互いに助け合い笑顔があふれる社会」だと考えます。笑顔とは、何かおもしろいことや楽しいことがあったときだけに浮かぶものでしょうか。私は違うと思います。困ったときなど、誰かに親切にしてもうと感謝の気持ちや温かい気持ちが生まれ、自然に笑顔になります。それだけでなく、手助けした方も温かい気持ちになり、「手助けしてよかった」と笑顔になります。このように笑顔が一つずつ広がることでみんなが気持ちよく過ごせるのです。もちろん、手助けをするだけで社会が明るくなるわけがない、と思う人もいるでしょう。しかし、行動を起こさなければ何も始まりません。どんな小さなことでも良いのです。その第一歩で何かが変わり始めるはずです。

まずは、「おはようございます」「ありがとうございます」「すみません」そんな人ととのつながりを築いていく言葉かけから始めようと思います。また、お年寄りの方やけがをされている方など、困っている人を見かけたら自分から進んで手を差し出せるようになりたいです。この社会が協力し、助け合い、笑顔があふれるようになることを願って、まずは私自身が行動を起こしていきたいです。



「平和」・ 「人権」とは

東条中学校
1年 梶本 紫月

テレビや新聞を見ると、毎日のように暗いニュースが飛び交っています。学校でのいじめや体罰、職場でのセクハラやパワハラ、お金の絡んだ犯罪や殺人事件など、数え上げればきりがありません。どうしてこのように次から次へと同じようなことが繰り返されるのか、私はそれが不思議でなりません。

大きな問題になって、記者会見でフラッシュがたかれる中、責任者が深々と頭を下げる姿も何度も目にしたことでしょう。どれもこれも一時的に社会の関心を集めますが、「二度とこのようなことが起こらないように。」とか、「再発防止に努めます。」など、決まり文句のように言うだけで、被害者の願いは、あっさりと風化しているように思います。教訓が生かされることもなく、どこへ行っても住みにくい社会だなと感じます。

日本には、「人のふり見てわがふり直せ」とか、「親の背を見て子は育つ」という言葉があります。

それは自己中心的な生き方に対する戒めの言葉だと父は教えてくれました。私たちは家を一步出たとたんに他人とのかかわりが始まります。そこには人の数だけ考え方があり、人の意見に流されることもあるって、何が正しいのかさえ分からなくなります。お互いが自分の考えを押し通そうとすれば争いが起り、争いを避けようとすればどちらかが我慢するしかありません。いずれにしても楽しいとは言えません。人は生まれた瞬間は、たくさん的人に笑顔をもたらす存在だったはずです。それが、成長するにつれて、人に不快感を与える存在に変わっていくなんて、やっぱり不思議です。ほんの少しの優しさで人は嬉しくなります。言い換えれば、それだけ人の優しさを感じるような場面が少なくなっているということなのかなと思います。

「優しさ」とはなんでしょう。父はその原点は、「家庭の平和」にあると言います。兄弟ゲンカや親子ゲンカをしないという意味の平和ではありません。家族がしっかりと会話することによって、考えの違いによる言い争いはあるでしょう。しかし、家族で物事の善悪について考える時間が持てるということが平和ということであり、これがすべて優しさに通じると言い切ります。

家庭での家族の会話がどうして人の優しさや住みよい社会に繋がるのかという疑問にも、父は答えてくれました。世界の国土の大部分を占めるロシアも、軍事大国のアメリカや中国も、最初から国があったわけではなくて出発点は一人の人間だと思います。社会を形成する最小の単位が家庭で、それが集まつたものが集落となり、市町村になります。さらにその集合体が都道府県になり、やっと一つの国が出来上がります。そしてそれらの国が集まって世界になるわけだから、人ひとりの存在は小さいように見えて実は大きいものなんだ、というのが父の考えです。その話を聞いて私は、言葉は違っても豊かな暮らしや平和な社会を望むのはどこの国も同じんだろうな、だからこそ社会の出発点となるそれぞれの家庭が楽しくなければ、明るい社会も人に優しい社会もできないのではないか、と思いました。

人に優しくなるとすれば、「人権」という言葉が避けて通れなくなります。漢字にすると、とたんに難しい印象になるので、人権と聞くだけで、自分には関係ないと判断してしまうのか、人は無意識のうちにかかわることを避けようとしているように見えます。でも、私たち人間は、どこへ行こうとも、そこに人がいる限り「人権」の問題から離れることはできません。

人のお手本になることは難しいし、やればできるというような簡単なことではないはずです。しかし、あの人のようになりたいなと思われることには憧れます。何かにつけて丁寧に教えてくれたり、時には目を吊り上げて本気で怒る父ですが、いつまでも私のお手本にできるような存在であってほしいなと思います。そしていつの日か「お父さん、その考え方はちょっと違うんじゃない?」と自分自身の考えを笑って語り合えるような、そんな家族でありたいなと思います。



『伝えていくべきもの』

兵庫教育大学附属中学校
3年 杉本 菜瑠

「平和をつたえていることを期待しつづけて、先輩たちは、永遠の眠りについている。」修学旅行で沖縄へ行ったとき、講話をしていただいた中村功さんが最後におっしゃった言葉です。この言葉を聞いた時、私は背筋をのばしていただいたような気がしました。

今から約六十八年前。私達の祖國は、戦争の真っ只中でした。今の私達では想像できないような生活を、毎日毎日、終わりがくるのかさえ分からず、くり返していたのです。自分の好きな物を好きと言えず、我慢をしいられ、今の私達が何気無くしていることが、当時の人にとっての幸せだったということがあるかもしれません。

沖縄へ行き、実際に自分の目で、沖縄戦の真相を目の当たりにしてみて、改めて、戦争の凄まじさ、残酷さを感じました。一番衝撃を受けたのは、自分と同じくらい、もしかしたらもっと年齢の低い少年が、倒れている写真です。その少年は、空を仰ぐようにして横たわっていました。彼は、何を思っていたのでしょうか。私が想像するに、それは沖縄の美しい自然や海、一番は、愛する家族だったと思います。「最後にはみんな、お母さんと叫びながら亡くなって行った。」戦争を体験した方々の証言で何度も耳にしました。最後の最後は、自分を育ててくれたお母さんに会いたいという小さな願いさえ、戦争というものは打ち碎き、残された者には深い悲しみを与えたのです。

その残された方々の戦後の苦悩にも、私は衝撃を受けました。私は、最初、「戦争が終わって、少しは心がやすらいだだろうな。」とそんなことを考えていました。でも、全く違ったのです。戦争の本当の恐ろしさはそこにあるのかもしれません。生きたくても生きられなかった友の分まで、生きなければという思い。

残された遺族からの悲しみに満ちた視線。目をそむけたくなるような、戦争の生々しい跡。その全てを受けとめて生きることに、どれほど重みがあったでしょうか。

でも、そんな中で、沖縄を元の美しく、人の温かさが感じられる沖縄に戻そうとされたのです。目をつむりたくなるような記憶から、心を閉ざしても、それでも、若い世代の私達に何かを伝えよう、残していくこうとしてくださっているのです。

私達に何ができるのか、それはただ一つ、戦争の実態を知り、平和を訴え続けていくことだと、私は思います。修学旅行後、家族に、沖縄戦のことを聞いたり見たりして、自分は、旅行を楽しんでいても、どこかぽっかり穴があいたような気持ちになってしまった。と話しました。すると「亡くなった方々は、また来てください。って思ってらっしゃると思うよ。」と言ってくれました。私は、その言葉を聞いて、心が軽くなったことを覚えています。実際に沖縄へと足を運ばなければ感じられない、恐怖や悲しみがたくさんあります。ですが、それだけではなく、「私達が愛したこの土地を、あなた達で守ってね。」という強い願いも、私達に届けようとしてくださったんじゃないかと私は思います。

私達は今、将来の夢を持つことができます。何年後、何十年後の自分やまわりの人を、想像することが出来ます。私達にとってはふつうの事でも、世界の国々の中では、それすらままならない子ども達もいるのです。世界と言ったら大きいかもしれないけれど、私たちが、平和について発信することで、少しでも救われる命が、たしかにあるのです。



平成26年度

地区住民学習 推奨ビデオ

「ピーロー」 DVD (34分)



「無縁社会と家族」

「生きること」
「つながること」

地域で起つる身近な人権問題に対し、傍観者としてではなく主体的に行動することで、新たな地域のつながりを結んでいくことの大切さを訴えかけてくる作品。

新規購入 図書の紹介

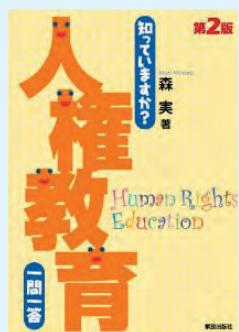
「知っていますか？」

人権教育

「なぜ人権教育が必要?」
「同和教育との関係は?」「学校で大事にすべきことは?」など、よくある25問にやさしく答えた入門書。
さまざまな教育運動との

関係、視点と方法、政策的動向や今後の課題などをまとめた大幅改訂新版。

明の鍵を見いだした。
○水平社宣言誕生の背景と歴史的意義を多角的に考える。



「人権の世間をつくる」

部落差別をはじめ、福島病回復者への差別などさまざまの差別の現実と共通性を見据え、過去の差別事件や同和行政の基本、人権意識調査の再整理を試みる。



「部落・差別の歴史」

○長年にわたって東日本の部落史研究をリードしてきた著者が、その部落史像を体系的に展開。

「よくわかる学級ファシリテーション③授業編」

先生や子どもたちがファシリテーターになると、教室に豊かな言語活動が育まれ、



「よくわかる学級ファシリテーション③授業編」



東日本大震災は、終わっていない。報道をはじめ私たち大人は、何をしただろう。何ができるのだらう。自宅に戻りたい人、遠くに行かざるをえない人。私は何を求めているのか、心の奥深くに鋭く問いかける長谷川集平の絵本世界。

「およぐひと」



「つくりかえられる徴」

「解放令」が出されてから130年あまりが過ぎ、その間、社会は大きく変化をとげてきた。本書は、明治維新から今日までの日本近代のあゆみのなかに部落問題を位置づけ、できるかぎり他のマイノリティのありようも視野に入れながらその歴史を明らかにするものである。

授業がとても楽しくなります。子どもやクラスが成長する「信頼ベース」の授業の進め方を小学校国語、算数の授業事例などを用いて紹介します。

「まちかどの芸能史」

中世から近世にかけて、路上や軒先で演じられた多様な芸能が人びとを楽しめた。次々と新しいものが生まれては消えていった芸能(者)に光をあて、多様な芸能どうしの影響関係や社会、中近世の「まちかど」を描き出す。



加東市マスコットキャラクター
「加東 伝の助」

ビデオ・図書は貸出しきできます。お申し込みは、教育委員会人権教育課まで。

TEL 43-0544

発行

加東市教育委員会
加東市人権・同和教育研究協議会

〒673-1443
兵庫県加東市社50
TEL 0795-43-0544

FAX 0795-43-0555